授業づくり研修講座　実践レポート

相模中学校　氏名　矢野哲三

単元名　第１学年　国語　論理的に考える「論理で迫るか、感情に訴えるか　討論ゲーム」

実践のポイント（工夫）

○教材のつながりを意識させる。

・同単元最初の教材の説明文「玄関扉」で三角ロジックを学ぶ。その際にこの単元のゴールとして討論ゲームがあり、論理を使って主張できるようになろうと意識づけを行った。

・同単元二つ目の教材「接続する語句と指示する語句」で、接続する語句が論理の展開に果たす役割を確認にして、討論に生かせるようにした。

○ほかの学習（道徳）とのつながり

　道徳で「大切なもの」について話しあう時間があり、テーマの一つとして使った。

実践内容

1. 教師が示したテーマ、あるいは自らが主張しやすいテーマで４００字程度の文章を作る。（学習してきた論理を使って主張する練習）
2. 教師の示した三つのテーマ・九つの主張の中から、学習班（４人組）で自分たちの主張を一つ選ぶ。

　テーマ　　　　　　　　　主張

　タイムトラベルするなら…縄文、平安、昭和

　行事を一つだけ残すなら…校外学習、体育祭、文化祭

　大切なもの　　　　　　…金、家族、友人

1. 学習班内で「論理で迫る」グループと「感情に訴える」グループに分かれそれぞれシナリオ作成。
2. グループ内で練習。
3. ほかのグループのシナリオを読み質問を考える。
4. 討論ゲームを行う。
5. 討論ゲームを見て、論理で迫るときと感情に訴えるときのそれぞれのポイントを確認する。

振り返り

　最初に個人で文章を作る際には、学んできたかたち（三部構成、ナンバリング、三角ロジック、接続する語句など）を生かして書くことは意識できていた。グループで発表準備をする中で思考が深まることを期待したが、あまり深まらなかった。